

根室線 東鹿越～上落合間の被災状況について

根室線 東鹿越～上落合間については、平成 28 年 8 月 31 日の台風 10 号による集中豪雨により、橋りょう及びトンネル周辺の斜面を中心に甚大な被害が発生しました。現地の被害調査については、昨年の冬期前までに全ての箇所を実施することはできませんでしたが、当該箇所の積雪状況を踏まえ、本年 5 月上旬に残りの箇所等の現地調査を実施しました。主な被害状況と、復旧工事を実施する場合の概算費用等は以下のとおりです。

1. 主な被害状況と災害復旧の概算費用等

(1) 主な被害状況について 【別紙】

① 登満川橋りょう（河川名称：越中団体の沢川）

集中豪雨により、越中団体の沢川の上流から流れ込んだ土砂が当該橋りょうの橋桁下部まで堆積したため、河道が閉塞しました。このため、堆積している土砂の撤去および護岸の整備が必要となります。なお、現在は当社が河道の一部を整備して一時的に流水路は確保されています。

② 第 1 ルーオマンソラプチ川橋りょう付近（河川名称：ルーオマンソラプチ川）

ルーオマンソラプチ川の上流から流れ着いた大量の流木が当該橋りょうに堆積したため、当該橋りょう付近で合流している内の沢川がその流木でせき止められた状態となり、氾濫した泥水等が第 1 ルーオマンソラプチ川橋りょうと第 1 落合トンネルの間の線路に流入しました。このため、堆積している大量の流木と線路内の土砂の取り除きが必要となります。

③ 第 1 落合トンネル及び落合駅構内

ルーオマンソラプチ川の支流である内の沢川の氾濫により線路に流入した泥水等は、第 1 落合トンネル内に流入し、さらには落合駅構内にまで達していたため、第 1 落合トンネル内及び落合駅構内には大量の土砂が堆積しています。このため、線路内の土砂の取り除きが必要となります。

④ 第 4 落合トンネル出入口付近の斜面

第 4 落合トンネル出入口付近においては、線路脇の斜面が崩壊したことにより線路上に土砂が流入していました。特に、トンネル入口（滝川方）の斜面崩壊では、流入した土砂が線路を越えて、隣接する道道 1117 号線まで達していました。このため、崩壊した斜面の復旧が必要となります。緊急対策として当社が線路と道路の間に土堤を設置し、道路への土砂流出などに対する二次災害防止を図っています。

(2) 災害復旧の概算費用等について

災害復旧の概算費用は、当社が管理している設備について、同規模の災害に対しても機能が維持できるために必要となる復旧工事の概算額を計上しており、その内訳は以下のとおりです。

復旧工事を実施する場合、これらの復旧期間は、少なくとも12ヶ月以上の期間を要することが見込まれます。

災害復旧の概算工事費

(単位：億円)

駅区間等	系統別概算工事費内訳				主な工事内容
	土木	軌道	電気	計	
東鹿越 (構内含む) ～上落合 (構内含む)	5.4	2.3	2.8	10.5	【土木】 盛土復旧、護岸新設、のり面工新設、排水管新設、流木撤去、土砂しゅん濇 等 【軌道】 道床交換 等 【電気】 踏切復旧、その他電気設備復旧、運行管理装置機能確認 等

復旧工事費は概算で10.5億円かかります。復旧するには国等による災害復旧事業費補助の枠組みを使うこととなりますが、公的資金を入れるということは、持続的に路線を維持していくことが前提となります。

2. 河川管理者等をお願いする事項

同区間の復旧に当たっては、鉄道施設の復旧工事のほかに、河川管理者（南富良野町）および道路管理者（北海道）をお願いする事項が、以下のとおり必要となると考えております。

箇所	被災状況	河川管理者等をお願いする事項
第1ウグイス沢橋りょう	橋りょう桁下に土砂の堆積 線路内への土砂・流木の流入	上流に砂防えん堤を新設
登満川橋りょう		
二の沢橋りょう		
第1落合トンネル～ 第1ルーオマンソラプチ川橋りょうの間	内の沢川の氾濫水による線路内への土砂・流木の流入	内の沢川に沿って線路との間に河川堤防を新設
第1ルーオマンソラプチ川橋りょう	線路内への流木の流入	ルーオマンソラプチ川上流における流木対策（えん堤新設等）
第2落合橋りょう	線路内への土砂の流入	上流に砂防えん堤を新設
第4落合トンネル 出入口付近	斜面から線路、道路への土砂等の流入	斜面からの流水を処理するための排水管を、線路に隣接する道路下に新設